

3 将来を豊かに生きる力の基礎を培う学校教育の推進 【学校教育課】

大項目	1) 確かな学力の向上
中項目	小項目／点検・評価
<p>(1) 学力検査による児童・生徒の学力の検証及び対策</p>	<p>○全国学力・学習状況調査、県学力調査と併せてNRT検査（全国標準学力検査）を実施し、学力向上対策分析を行った。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果について、小学校の国語・算数及び中学校の国語は全国平均を下回ったが、中学校の数学は全国平均を上回った。</p> <p>○各学校に対し、全国学力・学習状況調査に関わる基本的な方向性を示し、次の取組を促した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と活用力の向上に向けて以下の取組を全校的に推進する。 ア 調査結果の分析を各学校で行い、学力を把握する。 イ NRT検査により各学校で進めている学力向上対策を今回の調査結果を基に見直す。 ウ 町や各学校の学力向上プランをもとに、全教員で児童生徒の学力向上の課題を共有する。 エ 県教育委員会作成の新3つの提案等改善資料を活用しながら、課題解決に向け、日々の授業の改善を行う。 オ 学力向上委員会において、専門家の助言をもらったり、各学校の取組で効果のあった事例の紹介をしたりする。 <p>○各学校では、町教育委員会の基本的な方針、取組の方策を受けて、学力向上委員会、企画委員会等で分析し、検証を行った。この検証結果を踏まえ、授業の中で実践していく視点の明確化、家庭との連携等、具体的な対策を講じた。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成29年度の「全国学力・学習状況調査で全国平均を上回る領域数」は、平成28年度と比較すると減少した。その結果を分析すると、課題として、小学校国語科においては「目的に応じて話すこと」、算数科においては「資料の分類整理」、中学校国語科においては、「文学作品を読むこと」等が挙げられる。</p> <p>小学校は、ペアやグループでの交流活動で相手意識を持って話し合い活動を仕組んだり、算数科で扱う2次元の表を、他教科でも意識して取り入れたりするよう指導を行う。</p> <p>○引き続きNRT検査を実施し、同一集団の経年比較を学力分析ツールを活用して行う。また、その分析結果に基づいた課題を、スキルタイムなどの基礎基本を押さえる時間や家庭学習の際に取り込み、基礎学力の定着を図るよう校長会・町学力向上委員会において指導を行う。</p>

中項目	小項目／点検・評価												
	<p>○町の学力向上委員会において、学力調査の結果と新学習指導要領の内容を関連付けた対策を提示し、各校の学力向上プランにも入れるように指導する。また、授業研究会等の校内研修においても新学習指導要領の趣旨に沿った指導助言を行う。特に新学習指導要領の各学年の目標が、その学年の到達目標であることを意識して授業改善に取り組むように指導を行う。</p> <table border="1" data-bbox="410 521 1420 846"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>基 準</th> <th>実 績</th> <th>目 標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国学力学習状況調査で全国平均を上回る領域数</td> <td>平成 26 年度</td> <td>平成 29 年度</td> <td>平成 32 年度</td> </tr> <tr> <td>小 6 【国語 A・B、算数 A・B】 中 3 【国語 A・B、数学 A・B】 《A=基礎、B=活用》</td> <td>3/8</td> <td>2/8</td> <td>5/8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※分母 8 領域＝小 6 4 領域 【国語 A・B、算数 A・B】 ＋中 3 4 領域 【国語 A・B、数学 A・B】 分子 ＝全国平均を上回った領域数</p>	指 標	基 準	実 績	目 標	全国学力学習状況調査で全国平均を上回る領域数	平成 26 年度	平成 29 年度	平成 32 年度	小 6 【国語 A・B、算数 A・B】 中 3 【国語 A・B、数学 A・B】 《A=基礎、B=活用》	3/8	2/8	5/8
指 標	基 準	実 績	目 標										
全国学力学習状況調査で全国平均を上回る領域数	平成 26 年度	平成 29 年度	平成 32 年度										
小 6 【国語 A・B、算数 A・B】 中 3 【国語 A・B、数学 A・B】 《A=基礎、B=活用》	3/8	2/8	5/8										
<p>(2) 町版学習の手引き（進んで学ぶ時津っ子）の作成と配布を通じての学校・家庭の連携した学習への取組の啓発</p>	<p>○「進んで学ぶ時津っ子（H29 年 3 月改定版）」を全児童・生徒に配付し、学級 PTA 等での話題とするよう各学校に指導し、家庭での学習習慣の定着が図られるようにした。宿題と家庭学習、学年に応じた自主学習を推奨し、発達段階に応じた家庭学習の習慣化のための参考として、町版学習の手引き「進んで学ぶ時津っ子」を活用するよう指導した。</p> <p>○学習の手引き「進んで学ぶ時津っ子」の活用状況について、町の学力向上委員会において、情報交換を行ったところ、各家庭への周知にとどまっていた。そこで県教委作成学力向上のための「新 3 つの提案」と関連付けながら、家庭との連携を図るよう指導した。特に課題の質と量については、県教委作成学習プリント集「ゆめあこ」の積極的な活用を促した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○全国学力学習状況調査において、「家で宿題をしている児童生徒の割合」は「小学校 96.2%、中学校 88.5%」と高いが、「自分で計画を立てている割合」は「小学校 58.8%、中学校 42.3%」と低い状況にある</p> <p>町版学習の手引きを活用し、各家庭での記入欄「我が家の約束」への記入を促し、望ましい家庭学習の習慣化の啓発を図る。また、「進んで学ぶ時津っ子」の活用状況について調査し、町学力向上委員会において、各学校における活用の工夫について情報交換を行い、活用状況がよくない項目については、啓発及び内容の見直しを図る。</p>												

中項目	小項目／点検・評価
<p>(3) 町立小中学校の研究指定と指導主事による指導体制の充実</p>	<p>○児童・生徒の学習機会の拡充、学習意欲の向上、学習習慣づくりを目的として、町教育委員会から町内小中学校へ教育研究委託を行い、特色ある取組に努めた。</p> <p>[各学校の研究主題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時津小学校 「確かな学力を身につけ、生き生きと学び合う時津っ子の育成」 ～45分で力をつける算数科学習～ ・時津北小学校 「豊かな国語の力を持つ子どもの育成」 ～主体的・対話的で深い学びの視点をふまえた国語科授業改善を通して～ ・時津東小学校 「学びを活かし、自分の思いや考えを豊かに表現する東っ子の育成」 ・鳴鼓小学校【研究発表校】 「読む力を育てる国語科授業」 ～身に付けさせたい力を明確にした単元構想～ ・時津中学校【研究発表校】 「生徒の個性を伸ばし、未来を切りひらく力をつけるキャリア教育」 ～学力と人間関係をつくる力を基盤に据えて～ ・鳴北中学校 「主体的に学習し、学びを深める生徒の育成」 <p>○平成 29 年度の研究発表校において、以下のような成果と課題が見られた。</p> <p>【鳴鼓小】</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全国学力・学習状況調査において平成 27 年度と比較して、平成 28 年度は 4 項目中 1 項目、平成 29 年度は 4 項目中 3 項目で向上が見られた。 ②NRT 検査の平成 27 年度と比較して 2～6 年生のうち、平成 28 年度には 2 学年、平成 29 年度には 3 学年向上が見られた。同一集団の経年変化では、5・6 年生が 2～3 ポイント向上が見られた。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全国学力・学習状況調査において、長文読解や語彙力に課題が残った。 ②授業のねらいと児童に示すめあてにずれが見られたことがあり、教材研究が不十分であった。

中項目	小項目／点検・評価
	<p>【時津中】</p> <p>(1)成果</p> <p>①キャリア教育を系統的に捉え、教育活動全体を通して行うものという認識を持つことができた。</p> <p>②キャリア教育を推進する教職員の意識向上につながった。</p> <p>(2)課題</p> <p>①キャリア教育で身につけるべき資質・能力を各教科等の授業やどの場面で育成するかを明確にする必要がある。</p> <p>②客観的データ(各種学力調査結果等)の学級指導や教育相談等への活用が不十分である。</p> <p>○鳴鼓小学校、時津中学校の研究発表会には町内の他校の多数の教職員が参加し、研究内容を共有することができた。</p> <p>○学校教育課指導主事が、町立小中学校を訪問し指導助言を行った。 訪問指導回数：20回</p> <p>○県教育センターの出前講座を活用し、全国・県の動向を踏まえた研究につなげた。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○新学習指導要領を根拠とした質の高い指導助言に努め、校内研究の方向性を示していく。その際、全国学力・学習状況調査の結果やNRT検査の経年変化とも関連付けながら授業改善につながる助言に努める。</p>
(4)教育のICT化の推進	<p>①ICT機器の整備</p> <p>○コンピュータ室のパソコン(各校42台)について、現在の学校での活用状況や今後どのような活用を考えているか、また、授業を実施するうえで必須の機能はあるか等について、各学校の情報担当教員と情報交換を行ったり、コンピュータソフトの業者によるデモを行う等、平成30年度の更新、及び周辺機器の整備に向け研究・検討を行った。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成30年度夏季休業中のコンピュータ室のパソコン等の更新に向けて、準備を進める。</p>

中項目	小項目／点検・評価			
	<p>② I C T 機器に関する教職員の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ I C T 機器の活用に関する研修会を初任者研修・中堅教諭等資質向上研修の合同で実施した。 ○ I C T 支援員が各小中学校を巡回訪問し、デジタル教材の作成を支援することで、電子黒板をはじめとした I C T 機器の活用が進んだ。 			
	指 標	基 準	実 績	目 標
	I C T を活用した授業をできる教職員の割合	平成 26 年度 70%	平成 29 年度 80.61%	平成 32 年度 100%
	<p>【課題・今後の取組】</p> <p>○新学習指導要領では、新たに小学校において「プログラミング教育」が導入されることとなるため、「プログラミング教育」に関する教職員の指導力向上が課題である。県教育センター等が主催する I C T 関係の研修に各校 1 名以上の参加を促すとともに、中央研修受講者や外部講師を活用し、プログラミング教育を含めた I C T 活用に係る町独自の研修を実施する。</p>			
	<p>③児童・生徒の情報活用の実践力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町立小中学校の普通教室に電子黒板等 I C T 機器が整備され、授業での活用が進んでいる。 ○メディア安全講習会を実施した。 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○複数学級での遠隔授業の実施を希望する学校もあったが、環境設定に課題があり、実施することができなかった。学校におけるインターネット及び I C T 機器を活用した遠隔授業については、教育委員会や I C T 支援員も環境設定、技術面においてサポートを行い、実施に努める。</p>			
	<p>④教師と子どもと向き合う時間を増やすための校務の情報化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校に教職員の出退勤管理システムを試験的に導入した。 ○「オンラインストレージ」を導入し、教育委員会と学校間、あるいは各学校間の文書や写真データのやりとりが容易になった。 			

中項目	小項目／点検・評価
	<p>【課題・今後の取組】</p> <p>○有効な教材等を全小中学校で共有することで、教職員の業務の効率化を図る等、校務の情報化を推進するため、平成 28 年度に「オンラインストレージ（インターネット上でデータが保管できる仕組み）」を導入したが、活用頻度があまり伸びていない。引き続き、学校へ「オンラインストレージ」の活用について、啓発を行い、校務の効率化を図る。</p> <p>○平成 30 年度から教職員の出退勤システムを本格的に実施する。</p>
<p>(5) 個に応じた教育の充実</p>	<p>①習熟度別・TTなどによる多様な形態による授業の実施</p> <p>○少人数指導、特別に配慮を要する児童の指導、生徒指導等に対応するため、県教育委員会に加配教員の要望を行い、以下のとおり配置された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導 1 人（中学校） ・児童・生徒支援 3 人・2 人（小学校・中学校） ・県教育支援 1 人（中学校） ・主幹教諭 1 人（中学校） ・主幹教諭非常勤 1 人（小学校） ・再任用短時間勤務 2 人（小学校） ・小学校専科指導（英語） 1 人（中学校） <p style="text-align: right;">合計 12 人</p> <p>○少人数指導やチーム・ティーチング(TT)による授業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時津小学校：2～4 年生の算数において、少人数指導と TT 指導を、4、5 年生の図工において TT 指導を行った。 ・時津北小学校：5,6 年生の算数において、少人数指導と TT 指導を行った。 ・時津東小学校：1, 2, 5, 6 年生の算数、1～6 年生の国語(図書)において、TT 指導を行った。 ・鳴鼓小学校：3～5 年生の算数において、TT 指導を行った。 ・時津中学校：全学年の数学、1, 3 年生の理科において、TT 指導を行った。 ・鳴北中学校：全学年の 5 教科、保健体育、音楽において、必要に応じて TT 指導を行った。 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○加配教員の要望を継続するとともに、加配教員の目的（少人数指導、小学校専科等）に応じた効果的な運用について、校長への指導を行う。</p>

中項目	小項目／点検・評価																								
<p>(6) 学力向上委員会の活性化による町立各小中学校の課題意識の高揚</p>	<p>○町立各小中学校の学力向上担当者を委員とする学力向上委員会を開催し、各学校の学力向上対策についての情報交換や児童・生徒の課題について協議した。また、長崎大学の藤井准教授から、各学校の学力向上プランについての助言や、先進的な取組について紹介を頂く等、今後の学校での取組に関する方向性を示した。</p> <p>開催回数：3回／年</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○学校の課題意識、教員の当事者意識をさらに高揚させるために、学力向上担当者をはじめ管理職を委員に加え、学力向上に向けた学校の組織的な取組を推進する</p>																								
<p>(7) 外国語教育・国際理解の推進</p>	<p>① A L Tによる学校訪問・授業における計画的指導</p> <p>○平成 32 年度からの、5・6 年生の英語の教科化、3・4 年生の外国語活動の導入に向け、平成 29 年 4 月から A L T（外国語指導助手）を 2 名体制とし、さらに、11 月から直接雇用の A L T を 1 名増員し、指導体制の充実を図った。</p> <p>○中学校の英語の授業だけでなく、小学校外国語活動において、担任や県から加配された英語教諭と A L T（外国語指導助手）とのチームティーチングによる授業に取り組んだ。</p> <p>○ A L T の配置時数</p> <table border="0" data-bbox="475 1283 1377 1574"> <tr> <td>・時津小学校</td> <td>250</td> <td>時間／5・6 年生</td> <td>6 学級他(1～4 年生)</td> </tr> <tr> <td>・時津北小学校</td> <td>146</td> <td>時間／5・6 年生</td> <td>4 学級他(1～4 年生)</td> </tr> <tr> <td>・時津東小学校</td> <td>348</td> <td>時間／5・6 年生</td> <td>7 学級他(1～4 年生)</td> </tr> <tr> <td>・鳴鼓小学校</td> <td>160</td> <td>時間／5・6 年生</td> <td>4 学級他(1～4 年生)</td> </tr> <tr> <td>・時津中学校</td> <td>330</td> <td>時間／1～3 年生</td> <td>16 学級</td> </tr> <tr> <td>・鳴北中学校</td> <td>160</td> <td>時間／1～3 年生</td> <td>10 学級</td> </tr> </table> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成 30 年度より、新学習指導要領への移行期間として 5・6 年生の外国語の教科化、3・4 年生の外国語活動が導入される。A L T の活用、町独自の小学校教職員の研修実施及び外国語教育に関する研修会への参加促進等により、指導体制の充実に努める。</p> <p>○小学校英語専科加配の県への要望を継続し、小中連携した英語教育の充実に努める。</p>	・時津小学校	250	時間／5・6 年生	6 学級他(1～4 年生)	・時津北小学校	146	時間／5・6 年生	4 学級他(1～4 年生)	・時津東小学校	348	時間／5・6 年生	7 学級他(1～4 年生)	・鳴鼓小学校	160	時間／5・6 年生	4 学級他(1～4 年生)	・時津中学校	330	時間／1～3 年生	16 学級	・鳴北中学校	160	時間／1～3 年生	10 学級
・時津小学校	250	時間／5・6 年生	6 学級他(1～4 年生)																						
・時津北小学校	146	時間／5・6 年生	4 学級他(1～4 年生)																						
・時津東小学校	348	時間／5・6 年生	7 学級他(1～4 年生)																						
・鳴鼓小学校	160	時間／5・6 年生	4 学級他(1～4 年生)																						
・時津中学校	330	時間／1～3 年生	16 学級																						
・鳴北中学校	160	時間／1～3 年生	10 学級																						

中項目	小項目／点検・評価
	<p>②地域人材の活用</p> <p>○時津東小学校において、地域の人材を活用して外国語活動に取り組んだ。</p> <p>・時津東小学校 2人</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成32年度からの、5・6年生の外国語の教科化、3・4年生の外国語活動の導入に向け、新たな地域の人材発掘及び活用に努める。</p> <hr/> <p>③長崎外国語大学との包括提携を活用した外国語教育の充実</p> <p>○長崎外国語大学との連携会議に学校教育課職員が参加し、情報交換を行った。</p> <p>○長崎外国語大学及びALTとの連携のもと、公民館教室として、子ども向け英会話教室や大人を対象とした韓国語教室を開催した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○長崎外国語大学との包括提携を活用しながら、ALTの協力のもと、中学生を対象とした「イングリッシュ・デイキャンプ」の実施について検討する。</p>
(8) ふるさと教育の推進	<p>①小学校社会科副読本「わたしたちの時津」の活用</p> <p>○小学校社会科副読本「わたしたちの時津」に関する評価テストを実施した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○社会科副読本の理解度を確認するために、引き続き評価テストを実施する。</p> <hr/> <p>②キャリア教育の充実（社会教育事業との連携）</p> <p>○職場体験学習</p> <p>・時津中学校 : 実習学年：2年生 実習場所：町内事業所 66 箇所 期間 : 平成30年1月23日(火)～25日(木)</p> <p>・鳴北中学校 : 実習学年：2年生 実習場所：町内事業所 41 箇所 期間 : 平成29年9月13日(水)～15日(金)</p>

中項目	小項目／点検・評価
	<p>○鳴北中学校の文化祭において、キャリア教育に関する発表を行った。</p> <p>○時津中学校において、キャリア教育研究発表会を実施した。【町研究委託事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日：平成 29 年 10 月 27 日(金) 参加者：約 100 名 <p>○小学生を対象としたキャリア教育事業を実施した【社会教育事業】</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、中学校におけるキャリア教育及び、小学生を対象とした社会教育事業を実施する。</p>
(9) 課外における指導時間の活用	<p>①放課後や夏休み等を利用した補充指導</p> <p>○各学校の判断により、夏休み等長期休暇を利用して補充指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校：プール指導、サマースクール、個人の学習指導 ・中学校：学年ごとの学習指導、個人の学習指導
大項目	2) 豊かな心の育成
中項目	小項目／点検・評価
(1) 道徳性を養う心の教育の推進	<p>○「時津っ子の心を見つめる週間」には、全ての町立小中学校において道徳の公開授業を実施し、家庭や地域との共通理解を深めた。また、被爆体験講話、地域のゲストティーチャーを招聘しての授業等の取組を行い、心の教育の充実を図った。</p> <p>○小学校では、価値観の形成を図る指導を徹底するとともに、自己の生き方を見つめさせる指導を行った。</p> <p>○中学校では思春期の特質を考慮し、社会との関わりを踏まえ、人間としての生き方を見つめさせる指導を行った。</p> <p>○道徳の教科化の趣旨を十分に踏まえ、国、県の動向を見極めながら、校長会や教育研究会道徳部会と連携し、平成 29 年度中に小学校の全体計画や年間指導計画等を作成した。</p> <p>○道徳の教科化に向けて、研究授業や講演会、担当者会議を町主催で開催し、町全体で教員の資質向上を図った。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○道徳の教科化に伴う評価についての研修を充実させる。</p>

中項目	小項目／点検・評価																		
<p>(2) 子ども読書活動推進計画に沿った読書活動の推進（社会教育事業との連携）</p>	<p>①学校司書の配置</p> <p>○学校図書館活動支援のため、教育振興公社に委託し学校司書を配置した。</p> <table border="0"> <tr> <td>・時津小学校</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・時津北小学校</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・時津東小学校</td> <td>2人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鳴鼓小学校</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・時津中学校</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鳴北中学校</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">合計 7人</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成29年8月に学校図書館システムを導入した。今後は、システム機能の効率的・効果的な活用に努める。</p>	・時津小学校	1人		・時津北小学校	1人		・時津東小学校	2人		・鳴鼓小学校	1人		・時津中学校	1人		・鳴北中学校	1人	
・時津小学校	1人																		
・時津北小学校	1人																		
・時津東小学校	2人																		
・鳴鼓小学校	1人																		
・時津中学校	1人																		
・鳴北中学校	1人																		
	<p>②学校司書の研修の充実</p> <p>○学校図書館システムの導入の参考とするため、長与小学校において視察研修を行った。</p> <p>・期日：平成29年5月11日（木）</p> <p>参加人数：学校司書5人、学校教育課職員2人 計 7人</p> <p>○時津図書館主催による司書研修会に参加した。</p> <p style="text-align: right;">11回</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○効果的な学校図書館システムの運用に向け、必要な研修等への参加を促進する。</p>																		
	<p>③学校における「朝の読書活動」の推進</p> <p>○町立小中学校で「朝の読書」を時間割に位置づけ、読書習慣の定着を推進している。</p> <p>○町立小中学校では、町立図書館の団体貸出を利用して学級文庫を開設し、身近に本がある環境を整えている。</p> <p>○学校司書・教員・図書ボランティア・児童・生徒相互による読み聞かせ等、各学校において特色ある読書活動を行っている。</p>																		

中項目	小項目／点検・評価			
	指 標	基 準	実 績	目 標
	1 日 30 分以上読書する児童生徒の割合 (小学 6 年生) (中学 3 年生)	平成 26 年度 29% 22.7%	平成 29 年度 39.7% 30%	平成 32 年度 34% 27.7%
	<p>【課題・今後の取組】</p> <p>○「1 日 30 分以上読書する児童生徒の割合」は基準年度と比較して増加した。PTA と連携しながら家庭に読書の効用について啓発を行う等、児童生徒の読書習慣の定着を推進する。</p>			
	<p>④学校図書館の整備・充実</p> <p>○町立小中学校に学校図書館システムを導入し、多くの時間を費やしていた本の貸出、返却業務や蔵書管理等の効率化等、学校図書館の整備・充実を図った。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○学校図書館システムの効果的な運用に努め、選書、レファレンス、読み聞かせ等への取組ができる時間を確保し、児童生徒の実態を捉えた読書活動の推進を図る。</p>			
(3) 人権・平和教育の推進	<p>①学校における人権教育の充実</p> <p>○各学校において教科、道徳、特別活動をはじめ全教育活動の中で人権教育を実施した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成 30 年度からの「特別の教科 道徳」を中心として、教育課程全体を通して、人権教育の推進に取り組む。</p> <p>②教職員の人権意識向上のための各種研修会への参加</p> <p>○県教委・人権教育研究会主催の研修会に参加したり、校内研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとつながる人権教育（平成 29 年 5 月 17 日(水)・18 日(木)） ・長崎県人権教育講演会（平成 29 年 8 月 3 日(木)） ・長崎県人権教育研究大会(平成 29 年 8 月 3 日(木)・4 日(金)) ・西海市西彼地区人権教育研修会(平成 29 年 6 月 8 日(木)) ・初任者研修(拠点校指導教員による人権教育を各校で実施) ・西彼杵郡人権教育研究大会(平成 30 年 2 月 7 日(水)) 等 			

中項目	小項目／点検・評価
	<p>○西彼杵郡人権教育研究大会を実施し、差別のない社会の実現に向けて講演等を行った。</p> <p>期日：平成30年2月7日(水)</p> <p>場所：とぎつカナリーホール</p> <p>講演：共に暮らす地域社会をめざして</p> <p>講師：熊本学園大学 東 敏裕 教授</p> <p>○平和のつどいやピースキャンドルの作成に初任者研修の一環として教職員も参加し平和への意識を高めた。</p> <p>※ピースキャンドルライトアップ事業は、台風接近に伴い中止</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○「じんけんながさき」人権啓発資料を使つての校内研修を各学校で実施し、人権意識の高揚に努める。</p> <p>○引き続き、学校教育だけでなく、町子ども会連合会等社会教育関係団体とも連携を図りながら人権教育・平和教育を推進する。</p>
	<p>③学校における「長崎原爆の日」を中心とした平和教育の充実</p> <p>○「長崎原爆の日」の8月9日を登校日とし、各学校において被爆体験者の講話等、平和集会を実施した。</p> <p>○千羽鶴を作成し、児童・生徒の代表者が時津町平和の集いに参加し記念碑に捧げた。</p> <p>○総合的な学習で、「ピースバトン・ナガサキ」を講師に迎え平和学習を行う等、「平和」や「いのち」の大切さについて学んだ。</p> <p>○小学校4年生又は5年生は、平和公園や原爆資料館を訪れ、平和案内人の方の説明を聞くなど、戦争や原爆の悲惨さ、平和の尊さについて学習した。</p> <p>○原爆資料館より借用した写真パネルを各学校で展示するとともに、各担当に対して平和学習のあり方について、情報提供や助言を行った。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、「長崎原爆の日」を中心として、被爆地長崎の児童生徒として、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において、生命を大切にし、平和を希求する心情・態度を育てる。</p>

大項目	3) 健やかな体を育む健康教育の推進			
中項目	小項目／点検・評価			
(1) 鍛錬を核とした体力づくりの充実	<p>○長崎県児童生徒体力・運動能力調査結果をもとに、時津町及び各学校の課題を捉え体力向上プランを作成し、体力向上に取り組んだ。</p> <p>○小学校では柔軟性を高めるため、「ジャックナイフストレッチ」について、体育授業の準備運動に設定し、意図的、計画的に取り組んだ。同一集団前年度比で全ての学年において柔軟性が向上しており、継続的に取り組んだ成果と考えられる。</p> <p>○時津中学校において、3年生と保護者を対象に体力向上実践セミナー「元気アップファミリーフィット」を実施し、生涯スポーツに向けての意識向上を図った。</p> <p>○「フィットネスチャレンジ長崎（小学校対象）」に、時津小学校・時津東小学校・鳴鼓小学校が参加した。学級の友達と「チャレンジ8の字とび」等の種目の記録に挑戦することを通して、仲間と関わりながら運動する楽しさや達成感を味わいながら、体力の向上を図った。</p>			
	指 標	基 準	実 績	目 標
	児童生徒の体力・運動能力調査で全国平均を上回る項目数 （小中学校各学年男女別に8項目）	平成26年度 33/144	平成29年度 26/144	平成32年度 45/144
	<p>※分母 144項目＝小学校6学年×8項目×2(男・女) ＋中学校3学年×8項目×2(男・女)</p> <p>分子 ＝全国平均を上回った項目数</p> <p>8項目 小学校：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・シャトルラン・50m走・立ち幅跳び・ソフトボール投げ 中学校：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・1500m走・50m走・立ち幅跳び・ソフトボール投げ</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○児童生徒の体力・運動能力調査において、全国平均を上回った項目数が平成28年度の36項目から、平成29年度は26項目に減少した。</p> <p>特に、小学校の長座体前屈や反復横跳びについて、前年度までは全国平均を上回っていたが、平成29年度に下回った学年があり、柔軟性と瞬発力に課題がみられた。</p> <p>柔軟性については、改善傾向も見られるが、全国平均には至っていないことから、引き続き「ジャックナイフストレッチ」を授業や業間体育の中で実施し、柔軟性の向上に取り組む。また、体育の授業における準備</p>			

中項目	小項目／点検・評価
	<p>運動に、瞬発力や俊敏性につながる動きを取り入れるよう指導する。</p> <p>○体力・運動能力調査の結果について、同一集団における経年変化に着して、体力向上プランを作成するよう指導を行い、課題の改善に努め、バランスの良い体力づくりを目指す。</p>
(2) 薬物乱用防止教育等の実施	<p>○全ての町立小中学校において、「薬物乱用防止教室」を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校：6年生対象 ・中学校：3年生対象 ・講師：学校薬剤師 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○近年、県内においても、未成年者の薬物使用に関する事案が発生している。薬物乱用や依存、体に与える影響、社会に与える影響等、引き続き、発達段階に応じた内容の「薬物乱用防止教室」の開催に努める。</p>
(3) 学校教育を通じた健康教育の推進	<p>①食育全体計画、食育年間指導計画の作成と活用</p> <p>○各学校において食育全体計画や年間指導計画を作成し、生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送るため、子どもたち一人一人が正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身につけ、食事を通じて自らの健康管理ができるよう、食育の推進に努めた。</p> <p>○計画に基づき、栄養教諭等が、授業や給食の時間に担任等と給食指導を行い、児童生徒の食育についての関心を高めた。</p> <p>○「学校における食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、全児童生徒を対象に「食物アレルギー調査」を実施し、必要に応じて個別面談を実施した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、食育全体計画等に基づき、食育を推進する。</p> <p>○食物アレルギーがある児童生徒の対応については、マニュアルに基づき慎重に実施するとともに、「ヒヤリ・ハット」事例等について、情報の共有を行い対応強化に努める。</p>
(4) 家庭への食育の啓発	<p>○学校給食への関心を高めるため、毎月の献立予定表を保護者に配布した。</p> <p>○「進んで学ぶ時津っ子」、「食育だより」、「学校だより」、「保健だより」等を活用し、家庭への食育啓発を行った。</p> <p>○町立小学校では、地域の老人会等と児童との交流を行い、給食を一緒に食べることにより、学校給食への理解を深めた。</p>

中項目		小項目／点検・評価			
		指 標	基 準	実 績	目 標
		朝ごはんを毎日食べる児童生徒の割合	平成 26 年度 87.2%	平成 29 年度 93.6%	平成 32 年度 90.0%
		<p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成 26 年度と比較して、毎日朝ごはんを食べる児童生徒の割合が増加し、目標を上回ることができたので、引き続き、朝食の必要性について「食育だより」や「学校だより」等を活用し、啓発に努める。</p>			
大項目	4) 特別支援教育の充実				
中項目	小項目／点検・評価				
(1) 学校教育相談員の設置	<p>○幼稚園、保育園、ひまわりの園、保健センターとの連携により、就学相談対象幼児の把握に努めた。</p> <p>○特別な配慮を要する児童等の就学について、保護者の不安や悩みに対して相談を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談人数：延べ 90 人 ・学校・幼稚園等訪問回数：40 回 <p>○就学後の指導に活かすため、保護者の同意を得て就学相談資料を学校へ提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料提供人数：37 人 <p>○就学相談に関する啓発活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け：2 回 ・住民向け：2 回 <p>○特別支援学校高等部の視察を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎県立希望ヶ丘特別支援学校 平成 29 年 10 月 11 日(水) <p>○町内の放課後児童デイ・サービス事業所の見学を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はるの樹 平成 30 年 3 月 19 日(月)、20 日(火) ・キッズクローバー 平成 30 年 3 月 6 日(火) <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○学校教育相談員の配置により、幼稚園・保育園の巡回だけでなく、小学校・中学校・特別支援学校等を訪問する時間を確保できるようになり、就学相談を行った児童生徒の適応状況等について、より詳しく捉えることができるようになる等、教育相談体制の充実につながっている。</p>				

中項目	小項目／点検・評価												
	<p>今後は、特別支援学校の視察やデイ・サービス事業所の見学等を実施し、小中学校に関するだけでなく、放課後の過ごし方や卒業後の進路に関する情報提供も行えるよう、さらなる資質向上に努める。</p>												
<p>(2) 特別支援教育コーディネーター研修会の実施</p>	<p>○特別支援教育の充実のため、特別支援教育コーディネーター連絡協議会を開催した。</p> <p>《第1回》 期 日：平成29年10月18日（水） 場 所：時津町役場 講 義：「特別支援教育コーディネーターの役割」 講 師：西浦上小学校 指導教諭 木村 栄 氏</p> <p>《第2回》 期 日：平成30年2月28日（水） 場 所：時津町役場 講 義：「感覚過敏のある児童生徒への対応について」 講 師：長崎大学子どもの心の医療・教育センター 技術補佐員 濱中 真実 氏</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○各学校の特別支援コーディネーターから、各校の取組状況についての情報交換をする時間が短く、学校が抱える問題点に対するアドバイスを求める機会がもっと欲しいとの意見が寄せられた。次年度開催に向けて会の運営について検討を行う。</p>												
<p>(3) 教育支援員の配置</p>	<p>○学習面や生活面で教育的支援を必要とする児童生徒に対し、適切な支援や介助を行うため、町立小中学校に教育支援員を配置した。</p> <p>○平成29年10月から、小学校の教育支援員を各1名ずつ増員した。</p> <table border="0" data-bbox="475 1585 909 1881"> <tr> <td>・時津小学校</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>・時津北小学校</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>・時津東小学校</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>・鳴鼓小学校</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>・時津中学校</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>・鳴北中学校</td> <td>1人</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">合計 12人</p>	・時津小学校	3人	・時津北小学校	2人	・時津東小学校	3人	・鳴鼓小学校	2人	・時津中学校	1人	・鳴北中学校	1人
・時津小学校	3人												
・時津北小学校	2人												
・時津東小学校	3人												
・鳴鼓小学校	2人												
・時津中学校	1人												
・鳴北中学校	1人												

中項目	小項目／点検・評価															
	<p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成 29 年 10 月から、小学校の教育支援員を各 1 名ずつ増員したが、通常学級に在籍する児童生徒を含め、特別な教育的支援が必要と思われる児童生徒の割合は増加傾向にある。各学校の実態把握に努め、教育支援員の配置体制について研究を行う。</p>															
<p>(4) 幼・保・小・中 特別支援学校 連携会議</p>	<p>○町内の幼稚園、保育園、小学校、ひまわりの園、福祉課、国保健康増進課、学校教育課の職員の連携により、特別な配慮を要する児童等に対して適切な支援を連続して行えるよう連携会議を開催した。協議の際に、ワークショップ形式を取り入れる等、会議の運営の改善に取り組んだ。</p> <p>期 日：平成 30 年 2 月 21 日（水）</p> <p>場 所：東部コミュニティセンター</p> <p>講 話</p> <p>「幼保小連携について」 学校教育課 専門幹</p> <p>「時津町の取組」 学校教育相談員</p> <p>協 議</p> <p>「幼保小連携の現状と課題」</p> <table border="1" data-bbox="414 1122 1420 1294"> <thead> <tr> <th data-bbox="414 1122 850 1189">指 標</th> <th data-bbox="850 1122 1043 1189">基 準</th> <th data-bbox="1043 1122 1236 1189">実 績</th> <th data-bbox="1236 1122 1420 1189">目 標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="414 1189 850 1240">幼・保・小・中・特別支援学校等</td> <td data-bbox="850 1189 1043 1240">平成 26 年度</td> <td data-bbox="1043 1189 1236 1240">平成 29 年度</td> <td data-bbox="1236 1189 1420 1240">平成 32 年度</td> </tr> <tr> <td data-bbox="414 1240 850 1294">連携会議</td> <td data-bbox="850 1240 1043 1294">1 回</td> <td data-bbox="1043 1240 1236 1294">1 回</td> <td data-bbox="1236 1240 1420 1294">3 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○1 回の開催では、時間が不足し主旨も活かされていない。会議の開催回数も含めて運営について検討・改善を行う。</p>				指 標	基 準	実 績	目 標	幼・保・小・中・特別支援学校等	平成 26 年度	平成 29 年度	平成 32 年度	連携会議	1 回	1 回	3 回
指 標	基 準	実 績	目 標													
幼・保・小・中・特別支援学校等	平成 26 年度	平成 29 年度	平成 32 年度													
連携会議	1 回	1 回	3 回													
<p>(5) 就学支援委員 会の開催</p>	<p>○町内特別支援学校、医師会、保健師等関係機関の協力を得て就学支援委員会を開催し、特別な配慮を要する児童・生徒の就学について諮問を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学支援委員会委員の人数 20 人 ・就学支援委員会の回数 3 回 ・対象児童・生徒数 56 人 <p>○緊急の場合を除き、12 月までには、措置変更の申請手続を行うよう幼保小連携会議において、学校教育相談員が特別支援コーディネーター等に年間スケジュールを示し、措置変更等に関する日程等の周知徹底を図った。</p>															

中項目	小項目／点検・評価
	<p>【課題・今後の取組】</p> <p>○就学支援委員会において、それぞれの能力に応じた教育が受けられるよう適正な就学支援を行うため、必要に応じて、保護者の同意のもと、幼稚園・保育園での活動の様子等、映像資料を活用する。</p>
(6) 通級指導教室の開設	<p>○平成 29 年度から時津中学校で通級指導教室を開設した（鳴北中学校兼務）。</p> <p>○週 1～3 時間の短い時間ではあるが、個に応じた指導がなされ、児童の成長につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時津小学校 21 人 ・時津北小学校 16 人 ※鳴鼓小学校兼務 ・時津東小学校 26 人 ・鳴鼓小学校 11 人 ・時津中学校 11 人 ※鳴北中学校兼務 ・鳴北中学校 5 人 <p style="text-align: right;">計 90 人</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○通級指導教室の入級を希望する児童生徒が増加している。</p> <p>通級指導教室の複数開設について県教育委員会に要望を行うとともに、教員の資質や技能を高める研修を実施する。</p>
(7) 特別支援学級の開設	<p>○町立小中学校全てに特別支援学級を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時津小学校 2 学級（知的・情緒） ・時津北小学校 2 学級（知的・情緒） ・時津東小学校 4 学級（知的・情緒 2・肢体不自由） ・鳴鼓小学校 2 学級（知的・情緒） ・時津中学校 2 学級（知的・情緒） ・鳴北中学校 2 学級（知的・情緒） <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、就学支援委員会の結果や保護者の意向等に基づき、特別支援学級の開設について検討を行う。</p>

大項目	5) 教育相談体制の充実	
中項目	小項目／点検・評価	
(1) 心の教室相談員の配置(中学校)	<p>①中学生の心のよりどころとしての心の教室の設置継続</p> <p>○町立中学校に心の教室相談員を配置して、生徒が不安や悩みなどを気軽に話せたり、ストレスを和らげたりして、心のゆとりを持てるような環境を提供した。</p> <p>・配置校：時津中学校、鳴北中学校 各校 1人</p> <p>・相談等件数 延べ 721件</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、各中学校に心の教室相談員を配置し、教育相談体制の充実を図る。</p>	
(2) スクールカウンセラーの配置	<p>○県教育委員会の事業を活用し、全ての町立小中学校へスクールカウンセラー^dを配置し、児童生徒、保護者の悩みや教師の指導上の悩みなどの問題解決に努めた。</p> <p>・相談等件数 延べ 326件 / 375人</p> <p>内訳 小学校 207件 / 239人</p> <p>中学校 119件 / 136人</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○必要に応じて、スクールソーシャルワーカー^e・心の教室相談員とも連携を図りながら、児童生徒の支援に努める。</p>	
(3) スクールソーシャルワーカーの配置	<p>○県教育委員会の事業を活用し、スクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒を取り巻く環境に問題があると思われる場合等、学校だけでは対応が困難な事象において、相談支援を行った。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○スクールソーシャルワーカーの認知度は高まっており、相談回数も増加し、学校・保護者・児童生徒の大きな支援となり成果も大きい。児童生徒及び保護者への相談体制の充実を図るため、引き続き、県教育委員会に対して週3回以上の配置を要望する。</p>	

^d スクールカウンセラー(SC)：臨床心理士等の資格又はカウンセリングの経験を有し、心の問題の専門家として小中学校で、生徒や保護者の悩みを聞き、教員をサポートする非常勤職員。

^e スクールソーシャルワーカー(SSW)：社会福祉士等の資格を有し、行政機関等の外部機関と学校との連携環境の構築、あるいは保護者の生活面等で、福祉的援助等の必要性が認められる家庭への自立支援相談等を行う非常勤職員。

中項目	小項目／点検・評価
(4)小1プロブレム・中1ギャップへの対応	<p>①幼・保・小・中・特別支援学校等連携会議を活用した小1プロブレム^fへの対応</p> <p>○幼・保・小連携会議を活用して、幼保小連携の現状と課題をワークショップ形式で協議し、連携の在り方等について認識を共有し、小1プロブレムへの対応を行った。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○幼・保・小連携会議の運営については、改善に取り組んでいるところであるが、幼稚園・保育園・小学校の連携のもと、幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通じて育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、子どもたちが小学校になれるための教育課程の作成を含め、引き続き検討を行う。</p>
	<p>②小中学校の連携した不登校対策推進及び中1ギャップ^gの解消</p> <p>○町内生徒指導委員会を活用して、各学校の生徒指導状況に関する情報交換、生徒指導面における小中連絡・情報交換等を行った。</p> <p>○時津中学校の英語教諭が4小学校に出向き、6年生に対して担任とのティームティーチングにより授業を行った。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○学力向上に関する成果と課題について、小中学校間で情報共有を図る等、校種間の理解を深め、中1ギャップの解消に繋げる。</p> <p>○時津中学校、鳴北中学校の英語教諭が、各中学校区の小学校へ出向き、外国語の授業を行えるよう、小学校英語専科加配の増員について県へ要望を行う。</p>

^f 小1プロブレム：小学校に入学したばかりの小学校1年生が集団行動が取れない、授業中に座ってられない、話を聞かないなどの状態が数か月継続する状態。

^g 中1ギャップ：小学校から中学校に進学したときに、学習内容や生活リズムの変化になじむことができず、不登校などが増加する現象。

中項目	小項目／点検・評価															
(5) いじめ防止対策基本方針の運用	<p>①学校いじめ防止対策基本方針の運用</p> <p>○各学校は、職員会議や校内研修を通じた教職員間の共通理解、児童生徒間の人間関係づくりの促進、教育相談体制の充実、アンケート調査や個人ノート、生活ノートからの実態把握や生活アンケート等を基にした児童生徒への個人面談を実施し、いじめ問題の未然防止、早期発見・対処に努めた。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成30年1月に改訂した「時津町いじめ防止基本方針」に基づき、各学校に対して、学校いじめ防止対策基本方針の改訂と円滑な運用を行うよう指導する。</p>															
	<p>②いじめ問題等連携会議の開催</p> <p>○町内各小中学校、町総務課、福祉課、民生委員・児童委員協議会などの関係機関及び人権擁護委員やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを委員とする時津町いじめ問題等連携会議を開催し、各学校の取組状況、各学期の取組の成果と課題などを協議し、関係機関との連携強化に努めた。</p> <p>期 日：平成30年2月26日（月）</p> <p>場 所：時津町役場</p> <p>内 容：・時津町いじめ防止基本方針の改定についての説明 （学校教育課専門幹） ・各学校からのいじめ・不登校等の状況報告</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>基 準</th> <th>実 績</th> <th>目 標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>平成26年度</td> <td>平成29年度</td> <td>平成32年度</td> </tr> <tr> <td>不登校児童の割合(小学校)</td> <td>0.3%</td> <td>0.4%</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>不登校児童の割合(中学校)</td> <td>2.1%</td> <td>2.5%</td> <td>2.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○本町の不登校児童生徒の割合は、平成26年度以降、約1%の水準で推移しており、引き続き、いじめの防止・不登校等に関係する機関との連携強化に努める。</p>	指 標	基 準	実 績	目 標		平成26年度	平成29年度	平成32年度	不登校児童の割合(小学校)	0.3%	0.4%	0.2%	不登校児童の割合(中学校)	2.1%	2.5%
指 標	基 準	実 績	目 標													
	平成26年度	平成29年度	平成32年度													
不登校児童の割合(小学校)	0.3%	0.4%	0.2%													
不登校児童の割合(中学校)	2.1%	2.5%	2.0%													

中項目	小項目／点検・評価
(6) カウンセリング研修への教職員の派遣	<p>○県教育委員会が実施するカウンセリングリーダー研修に、教員1人を派遣した。</p> <p>○カウンセリングリーダー研修を受講した教員を講師とし、町立小中学校の教育相談担当者を対象として、町生徒指導委員会において、伝達研修を実施した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○今後も計画的に研修へ教職員を派遣し、学校における相談体制の充実を図る。</p>
(7) 生活アンケートの実施（学期1回）	<p>①統一質問項目の運用</p> <p>○全ての町立小中学校において、学期に1回ずつ生活アンケートを実施した。</p> <p>○各学校において、生活アンケートを基に面談を実施した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、生活アンケートと面談を実施し、児童・生徒一人ひとりにきめ細かな対応を行う。</p>
(8) 町内生徒指導委員会の充実	<p>○生徒指導委員会では、生徒指導上の問題点などを各学校が持ち寄り、問題事例やその対応などについて情報交換、夏季休業等長期休業期間の共通理解事項の詳細確認、生徒指導面における小中連絡・情報交換等を行った。</p> <p>回数：5回</p> <p>○時津地区学校警察連絡協議会を開催し、時津警察署から講話や情報提供を受ける等、生徒指導の内容充実を図った。</p> <p>回数：2回</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○スマートフォンやタブレット端末等の普及により、ソーシャルネットワークサービス（SNS）を介したトラブルが増加する等、生徒指導上の問題も多様化している。引き続き、学校間、警察との連携を深め、生徒指導の充実を図る。</p>

中項目	小項目／点検・評価
<p>(9) 教育支援センター（適応指導教室）の設置</p> <p>※平成 30 年度より適応指導教室から教育支援センター（適応指導教室）へ変更</p>	<p>○適応指導教室を既に設置している市町の情報を収集した。</p> <p>○県教育委員会が実施する適応指導教室指導員等研修会へ学校教育課職員 1 名が出席した。</p> <p>期 日：平成 29 年 7 月 27 日（木）</p> <p>○長与町の適応指導教室の視察を行った。</p> <p>期 日：平成 29 年 11 月 13 日（月）</p> <p>視察を通して、適応指導教室への通級により、自己肯定感、対人関係力の向上につながっていることを実感し、不登校児童生徒の支援の場として非常に有効であると改めて認識した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○学校においては、魅力ある学校づくりに努めながら、学校に来られなくなった児童生徒に対し、様々な取り組みを行っているところではあるが、本町の不登校児童生徒の発生状況は、1%で推移しており、厳しい状況にある。</p> <p>本町の不登校児童生徒の状況を鑑み、早急な教育支援センター（適応指導教室）の設置が必要であり、平成 30 年度中の教育支援センター（適応指導教室）の設置に向けて検討・準備を行う。</p>
<p>(10) 相談電話の設置</p>	<p>①学校教育課内にフリーコールによる相談電話の設置及び相談受付</p> <p>○学校教育課内に教育相談電話を設置し、指導主事が教育に関する相談に対応した。</p> <p>相談等件数：3 件</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校教育相談員の配置により、相談電話以外の相談体制の充実が図られているが、教育相談電話についても、引き続き、積極的に周知を図るとともに、相談者に対し真摯な対応に努める。</p>
<p>大項目</p>	<p>6) 安全・安心な学校づくりの推進</p>
中項目	小項目／点検・評価
<p>(1) 学校安全計画、危険等発生時対処要領の整備・充実</p>	<p>①学校危機管理マニュアルの随時見直し</p> <p>○ミサイルの発射に伴う Jアラートへの対応と指導について、整備を行った。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成 30 年度に、文部科学省及び長崎県において、危機管理マニュアルの改訂が予定されている。国や県の改訂内容を参酌し、必要に応じて学校のマニュアルの改訂について指導を行う。</p>

中項目	小項目／点検・評価
(2) 各種危機を想定した避難訓練・防災教育の実施	<p>○各学校で「危機管理マニュアル」に基づいた安全対策（避難訓練、不審者対応、集団下校等）を行い、消防署や交通安全協会による講話等を実施した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、各種危機を想定し、計画的に避難訓練・防災教育を実施する。</p>
(3) スクールガードリーダー配置	<p>○県教育委員会より、スクールガードリーダー1人(時津町・長与町担当)が配置され、町立小学校の登下校指導、通学路点検、パトロールなどが行われた。</p> <p>○スクールガードリーダーからの通学路改善点報告に基づき、公園の敷地内の外灯を遮る樹木の枝について、剪定作業を担当課に依頼し改善した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○県教育委員会のスクールガードリーダーについては、平成29年度末で終了となった。</p> <p>今後は、「時津町交通安全プログラム」に基づく安全点検や、関係機関との連携強化、及び地域の見守り活動の皆様のご協力を頂きながら、通学路の安全確保に取り組む。</p>
(4) 通学路の安全確保・登下校時の安全教育の推進	<p>①関係課・学校等との連携による定期的な通学路の安全点検の実施（1年に1回）</p> <p>○「時津町交通安全プログラム」に基づき、長崎振興局、警察署、町都市整備課、総務課、学校教育課、町内小中学校をメンバーとする「通学路安全対策推進協議会」メンバーにより通学路の安全点検を行った。</p> <p>点検日：平成29年8月25日(金)</p> <p>点検箇所：29箇所</p> <p>○通学路安全対策推進協議会において、町都市整備課から、点検の結果に基づくその後の対応状況、今後の予定等について説明を受け、児童生徒の安全に寄与する様々な対策案や実施時期等を検討し、実施可能な箇所から随時改善した。</p> <p>開催日時：平成29年12月20日(水)</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き「時津町交通安全プログラム」に基づき、学校及び関係機関との連携を密にし、情報の共有を図りながら、児童生徒の安全確保に努める。</p>

中項目	小項目／点検・評価														
	<p>②定期的な集団下校等の実施</p> <p>○小学校においては、定期的に集団下校を実施するとともに、台風接近時などにも集団下校を実施した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○小学校においては、引き続き、集団下校等を実施し、交通安全指導の徹底に努める。</p>														
	<p>③保護者・地域との連携によるパトロール</p> <p>○地域住民による登下校時の児童生徒の見守り活動が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時津小学校 子どもば守らんば隊 ・時津北小学校 日並交友会防犯パトロール 子々川長寿会防犯パトロール ・時津東小学校 東っ子の命を守る連絡会 ・鳴鼓小学校 鳴小子ども見守り隊 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○保護者・地域との連携を図りながら、児童生徒の安全確保に努める。</p>														
	<p>④教育委員会による登下校時の通学路の安全点検の実施</p> <p>○春・夏・秋・冬の交通安全運動期間に、学校教育課職員による登下校時の通学路の安全点検を行った。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>基 準</th> <th>実 績</th> <th>目 標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">教育委員会による登下校時の通学路の安全点検</td> <td>平成 26 年度</td> <td>平成 29 年度</td> <td>平成 32 年度</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>4 回</td> <td>4 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、「時津町交通安全プログラム」の点検箇所を中心に安全点検を行い、関係機関と連携しながら、児童生徒が安全で安心して通学できる通学路の確保の充実に努める。</p>				指 標	基 準	実 績	目 標	教育委員会による登下校時の通学路の安全点検	平成 26 年度	平成 29 年度	平成 32 年度	—	4 回	4 回
指 標	基 準	実 績	目 標												
教育委員会による登下校時の通学路の安全点検	平成 26 年度	平成 29 年度	平成 32 年度												
	—	4 回	4 回												

大項目	7) 教職員の資質向上
中項目	小項目／点検・評価
(1) 校内研修の充実	<p>①町立小中学校の町指定研究と研究費助成【再掲】</p> <p>○児童・生徒の学習機会の拡充、学習意欲の向上、学習習慣づくりを目的として、町教育委員会から町内小中学校へ教育研究委託を行い、特色ある取組に努めた。</p> <p>〔各学校の研究主題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時津小学校【委託費：10万円】 「確かな学力を身につけ、生き生きと学び合う時津っ子の育成」 ～45分で力をつける算数科学習～ ・時津北小学校【委託費：10万円】 「豊かな読みの力をもつ子どもの育成」 ～国語科における言語活動を活用した授業改善を通して～ ・時津東小学校【委託費：10万円】 「学びを活かし、自分の思いや考えを豊かに表現する東っ子の育成」 ・鳴鼓小学校【委託費：15万円】※研究発表校 「読む力を育てる国語科授業」 ～身に付けさせたい力を明確にした単元構想～ ・時津中学校【委託費：15万円】※研究発表校 「生徒の個性を伸ばし、未来を切りひらく力をつけるキャリア教育」 ～学力と人間関係をつくる力を基盤に据えて～ ・鳴北中学校【委託費：10万円】 「一人ひとりの確かな学力を育む指導の工夫」 ～学習意欲の向上と学習習慣の定着を目指して～ <p>○県教育センターの出前講座を活用し、全国・県の動向を踏まえた研究につなげた。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○長崎県「新 学力向上のための三つの提案」の一つとして、「できた 分かった の笑顔があふれる授業」の提案が示され、町立小中学校においても、授業実践に努めているところである。校内研修や研究発表等の機会を捉えて、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の徹底等を含め、学習の定着につながる授業実践について指導を行う。</p>

中項目	小項目／点検・評価
<p>(2) 指導主事の各校 2 回以上の学校訪問による指導</p>	<p>【再掲】</p> <p>○学校教育課指導主事が、町立小中学校を訪問し指導助言を行った。指導主事の事務を事務職員へ一部シフトしたことにより、校内研修だけでなく、県教育委員会の出前講座等でも訪問指導を行った。また、全教職員への指導だけでなく、授業者、研究主任に対しても直接指導の時間をとることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問指導回数：20 回 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○担当外の教科等の指導については、引き続き県教育委員会・県教育センターの協力を得ながら行う。</p>
<p>(3) 各種研修会の充実</p>	<p>①町内校長会</p> <p>○町内校長会において、教育長説示、各課示達、学力向上、服務監督等に関する指導及び助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数：8 回 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○学力向上、服務監督等については、継続して指導・助言を行う。</p> <hr/> <p>②町内教頭会</p> <p>○町内教頭会において、教育長説示、各課示達、学力向上、服務監督等に関する指導及び助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数：3 回 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○学力向上、服務監督等については、継続して指導・助言を行う。</p>

中項目	小項目／点検・評価
	<p>③初任者研修(町教委担当の研修)</p> <p>○新任教職員の実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得させるため、長与町と合同による初任者研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：小学校4人、中学校2人 合計6人 ・内容等：時津町・長与町の教育長による講話 時津町・長与町教育委員会指導主事による講義 時津町・長与町立小中学校校長、教員、栄養教諭、養護教諭、大学教授による講話、講義、指導助言 クリーンパーク長与・時津クリーンセンターでの職場体験研修 社会貢献活動研修 等 ・研修期間等：地区研修 10回 社会貢献活動研修 5日間 ・各校の計画に基づき校内研修を実施した。 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、長与町との合同により、平成30年度から新しくなった長崎県教職員研修計画をもとに、計画的な初任者研修の実施に努めるとともに、初任者担当教職員を中心に学校における指導の充実に取り組む。</p>
	<p>④若手教職員研修</p> <p>○若手教職員研修を実施し教職員としての資質向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：小学校11人、中学校4人 合計15人 ・研修期間等：社会貢献活動研修(2年目研、5年目研 5日間) ・各校において、教科指導力向上研修を実施した(2年目研、3年目研)。
	<p>⑤中堅教諭等資質向上研修(※)(町教委担当の研修)</p> <p>※平成29年度より10年経過研修から中堅教諭等資質向上研修に名称変更</p> <p>○教職員としての資質向上のため、長与町と合同による10年経験者研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：小学校4人、中学校4人 合計8人 ・内容等：時津町・長与町の教育長による教育講演 時津町・長与町教育委員会指導主事による指導助言・講義 時津及び長与町立小中学校校長、大学教授による講義・演習・研究協議 各研修生による特定課題研究発表 等 ・研修期間等：地区研修(5回)、社会体験研修(夏季休業中の4日間)

中項目	小項目／点検・評価
	<p>○各校の計画に基づき校内研修を実施した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、長与町との合同により、平成 30 年度より新しくなった長崎県教職員研修計画をもとに計画的な中堅教諭等資質向上研修の実施に努めるとともに、学校において、特定課題研究発表に向けて、校内研修の更なる充実を図るよう指導する。</p> <hr/> <p>⑥15・20 年経過研修</p> <p>○県主催の 15・20 年経過研修への参加と充実を促し、教職員としての資質向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：小学校 4 人、中学校 1 人 合計 5 人 ・研修期間等：各校において個人毎に計画を作成及び実施した。 <hr/> <p>⑦教育講演会(町教委担当の研修)</p> <p>○町立小中学校の教職員を対象に教育講演会を実施した。</p> <p>新学習指導要領の改訂の社会的背景から授業改善の必要性について、また、2030 年を見据えた教育のあり方について考える機会になった。参加した教職員からは、広い視野で自分自身の教育活動を見直す機会となり、子どもの資質能力を磨く授業、授業改善の必要性について実感できたという感想が多く挙げられた。</p> <p>開催日：平成 29 年 8 月 23 日（水）</p> <p>講師：藤井 佑介 氏（長崎大学大学院 准教授）</p> <p>テーマ：「2030 年を見据えた教育と授業改善 ～VUCA（ブーカ）とコンピテンシーの視点から～」</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○引き続き、学力向上や人権教育等、本町の課題を捉えた教育講演会を実施する。</p>
(4) 中央研修等への積極的な教職員の派遣	<p>○教職員の資質向上のため、中央研修等への積極的な教職員の参加を促し派遣を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員等中央研修 1 人 ・カウンセリングリーダー研修 1 人 ・道徳教育指導者養成研修(ブロック研) 1 人 ・情報教育指導者養成研修 1 人

中項目	小項目／点検・評価
	<p>○学力向上・ICT活用を目的として、指導主事と町立小中学教員との合同により、先進校視察を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期 間：平成30年1月25日（木）～26日（金） ・視察先：熊本県球磨郡山江村教育委員会、村立小中学校 ・参加者：指導主事：2名、町立小中学校教員：6名 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○「特別の教科道徳」や小学校5・6年生の英語の教科化、3・4年生の外国語活動の導入等、学習指導要領の改正への対応が求められる。引き続き、研修等への積極的な参加を促す。</p>
(5) 人事評価制度の運用	<p>○学校管理職一人ひとりの実績や能力等を適正に評価し、研修や人事配置等に適切に反映させていくことによって、教職員の更なる意識改革と資質能力の向上につなげるため、人事評価を実施した。</p> <p>○「自己目標管理シート」に基づく校長、副校長、教頭対象の面談とシートを通しての指導・助言を定期的に行った。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○地方公務員法の改正等に伴い、新たな人事評価制度が導入された場合、円滑な移行に努める。</p>
(6) 服務規律の確保・不祥事根絶対策の継続と充実	<p>①各学校における服務規律委員会の組織と代表者による研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の不祥事を根絶するため、各学校では服務規律委員会等を開催した。 ○各学校において服務規律強化月間を定め、服務規律強化に取り組んだ。 ○各学校において不祥事根絶のための行動計画を策定し、計画的に取り組んだ。 ○教職員の辞令交付式及び経年研修において、指導主事による講話を行った。 ○不祥事根絶については、機会を捉えて、研修や通知等により指導・啓発に取り組んでいたが、管理職による不祥事が発生したことから、管理職を対象にコンプライアンス研修を実施する等、更なる指導・啓発に取り組んだ。 <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○不祥事は、教職員や学校に対する信頼を大きく揺るがすこととなることをこれまでの不祥事等、具体例を示しながら、校長会・教頭会において継続的に指導を行う。</p>

大項目	8) 地域とともにある学校づくりと家庭・学校・地域等との連携の充実 ※平成 29 年度「開かれた学校づくり」から「地域とともにある学校づくり」へ変更
中項目	小項目／点検・評価
(1) 学校評価の充実	<p>①町立小中学校における自己評価・学校関係者評価の適正な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての町立小中学校で、保護者、児童・生徒、地域住民にアンケートを行い、学校評価を通して改善に努めた。 ○時津北小学校を除く町立小中学校において、学校評議委員会を開催し、学校運営に関して意見具申や助言などを求めた。 ○平成 29 年度から時津北小学校においては、学校運営協議会で学校評価を行った。 ○学校においては、学校評価の結果について、学校便り等を活用し、周知に努めた。 <p>【課題・今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、評価の適正な実施に努める。 <p>②各校の評価結果等を通じた状況把握と各校に対する学校改善支援や条件整備等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校の学校評価結果を集約し、状況把握に努めた。 <p>【課題・今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 30 年 1 月に改訂した「時津町いじめ防止基本方針」に沿って、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくり、早期発見・事案対処のマニュアルの実行、定期的・必要に応じたアンケート、個人面談・保護者面談の実施、校内研修の実施等の状況を学校評価の評価項目に位置づけ、目標の達成状況を評価すること、また、評価結果を踏まえ、取組の改善を図るよう、指導助言を行う。
(2) 学校評議員会の設置・継続	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評議員を配置し、保護者や地域住民の意向を学校運営に反映させる等、地域とともにある学校づくりの推進を図った。 ・各校の配置状況 <ul style="list-style-type: none"> 時津小学校 : 3 人、時津東小学校 : 3 人 鳴鼓小学校 : 3 人、時津中学校 : 4 人 鳴北中学校 : 3 人 <p style="text-align: right;">計 16 人</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、学校評議員を配置し、保護者や地域住民の意向を反映した学校運営を推進する。

中項目	小項目／点検・評価
<p>(3) 地域とともにある学校づくりと家庭・学校・地域社会との連携</p>	<p>○時津北小学校学校運営協議会を設置し、学校教育目標、経営方針の承認や、北小児童の「良さ」と「課題」等テーマに沿った熟議、学校評価等を行い、学校、家庭、地域の連携強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員： 14人 ・開催回数： 6回 <p>○時津北小学校学校運営協議会委員の資質向上のため、研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講研修：「地域とともにある小中一貫型小・中学校を核に据えたコミュニティ・スクールの推進」研究発表会 開催日：平成29年10月13日(金) 場 所：小佐々中学校 ・町主催研修：コミュニティ・スクール推進員講演会 《文部科学省 CSマイスター派遣事業》 開催日：平成30年2月16日(金) 場 所：北部コミュニティセンター 講 師：福岡教育大学教授 森 保之 氏 (文部科学省コミュニティ・スクール推進員) <p>【課題・今後の取組】</p> <p>○平成29年度は、本町における学校運営協議会設置1年目であり、長崎大学教授の池田 浩氏にアドバイザーとして、ご指導を頂きながら学校運営協議会を実施した。今後も、研修等を通して学校運営協議会委員の資質向上に努めるとともに、アドバイザーからのご指導を頂きながら、学校、家庭、地域の連携につながる熟議を行い、地域とともにある学校づくりを推進する。</p>
<p>(4) 学校の情報公開（学校経営方針・学校教育活動の充実・学校評価結果）</p>	<p>○学校経営方針・学校教育活動に関する情報・学校評価の結果については、学校便りや各学校のホームページ等を活用して公表した。</p> <p>【課題・今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、積極的な情報公開を推進する。 ○学校評価の結果の公表内容について、評価の数値を活用しながら、保護者・地域の方々にもわかりやすいようなものとなるよう指導助言を行う。